

## 旧中島飛行機地下工場について

中島飛行機は元海軍機関将校中島知久平が大正6年12月に創設した、飛行機研究所が原点とされております。創業から終戦までに製作した機種は、民間機21種、陸軍機40種、海軍機65種、計126種。総生産機数2万5935機です。太田工場では、民間機74機、陸軍機1万2334機、海軍機3003機、計1万5411機を製造しました。中島飛行機が開発した戦闘機で最も有名なのは、一式戦闘機『隼』陸軍機です。

誰もが知っているゼロ戦に至っては三菱重工の開発ですが、半数以上が中島飛行機にて生産されました。藤岡市の堀越二郎氏が設計したのは有名な話です。

第2次世界大戦末期、中島飛行機太田工場は、B29による爆撃で徹底的に破壊されました。それにより米軍の空襲を避ける為、建設を進めたのが旧中島飛行機太田地下工場です。昭和20年1月に建設開始、終戦まで建造は継続されました。(同年8月頃)作業員1500人、10時間交代、そのうち中国人が280人、4月末から11月までの7か月の間、強制労働を強いられ、そのうち50人が死亡しました。別の資料によれば、280人の中国人の他、2000人を超える朝鮮人や数百人の日本人、合わせると3000人以上が工事に関わったという記述もあります。操業開始11月を目指しましたが、8月に終戦を迎えた為、半分程掘り進めた段階で建設中止となりました。完成規模は2ヘクタール(6050坪)になる予定でした。11月1日長岡寺にて慰霊祭を行い、石碑を建設しました。

この地下工場跡地は、現在崩落の危険性から完全に閉鎖されており、内部の調査も進んでおりません。

現在の太田市にある八王子丘陵、八王子霊園の奥には、入り口と思しき洞窟があります。頑丈な鉄格子で封鎖されているため、中へと入ることはできませんが、身近な戦争遺構として、見学することが出来ます。